

ArCS II イベントシリーズ x 海のサイエンスカフェ

ようこそ、**北極**へ!

北極海にひろがる プラスチック汚染

～サイエンストーク～

2024年

6/15 (土)

14:00～16:00

参加
無料

内容：北極海に流れ込むマイクロプラスチックが、
どこから来てどこに運ばれていくのかをみんなで考えます。

講師：池上 隆仁（海洋研究開発機構）

ファシリテーター：上野 洋路（北海道大学）

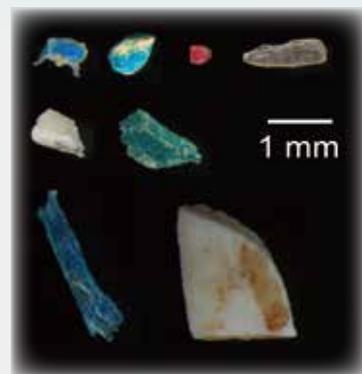
会場：談話室サザンクロス（国立極地研究所 南極・北極科学館隣り）

対象：興味のある方はどなたでも（高校生以上を推奨）

定員：先着 24 名（事前申し込み制）

参加料：無料 ※飲み物の持ち込みが可能です。各自ご持参ください。

主催：国立極地研究所、日本海洋学会教育問題研究会



▲北極海のマイクロプラスチック
撮影者_池上隆仁

申込方法 | 右の QR コードを読み込み、申込フォームよりお申し込みください。





講師よりメッセージ

池上 隆仁 (いけのうえ・たかひと)
海洋研究開発機構

私の専門は、生物海洋学です。これまでプランクトン、放射性微粒子、マイクロプラスチックなど、海の中の1mmよりも小さな粒子の量の分布や時間的変化について研究してきました。

岩手県盛岡市に生まれ、子供時代は主に埼玉県の武蔵嵐山という自然の豊かなところで育った私は、昆虫採集や化石・鉱物、プラネタリウムの観賞が好きな子供でした。その後、福岡県に引っ越し、大学に入学してからは、放散虫という鉱物質の骨格を持つプランクトンが大昔から海にいて、その骨格が化石となり、海底にたくさん存在することを知りました。放散虫は子供時代に好きだったものを合体させたような存在でしたので、格好の研究対象となり、研究のフィールドも海となりました。

北極海の研究を始めたのは、主に冒険心からでした。しかし、南極海よりも先に北極海を研究したいと思ったのは、子供のころに何度も岩手県に遊びに行った楽しい思い出があり、自然と北に向かいたい気持ちがあったためです。宮沢賢治の銀河鉄道の夜は、北十字から始まりますので、やはり最初に北極という気持ちがありました。

私の研究は放散虫というプランクトンから始まり、現在は、放射性物質やマイクロプラスチックへと範囲を広げてきました。私が研究をしていて面白いと思っているのは、新たな研究を始める際にそれまでの研究の知識が活かされ、海洋の物質循環という枠の中で必ずつながっていることです。みなさんと海とのつながりは何ですか。イベントで語り合えるのを楽しみにしています。



▲白い虹
(北極海おしよる丸航海 2023)



▲海氷
(北極海ローリエ号航海 2011)



▲海の表面に浮いているものを
採集するニューストーンネット
(北極海みらい航海 2022)



▲ニューストーンネットで試料を採取し船上に
引き上げた様子 (北極海みらい航海 2022)



ファシリテーターより メッセージ

上野 洋路 (うへの・ひろみち)
北海道大学



専門は海洋物理学で、北極を中心に研究しています。
2013年からは日本海洋学会で「海のサイエンスカフェ」を担当しています。
この「カフェ」では、情報を伝達するだけでなく、ぜひ皆さんの御意見を伺いたいです。よろしくお願いします。